

架空配電設備の景観調和手法

背景となる「場」と架空配電設備との調和を目指して

Technique for Landscape-Compatible Design of Overhead Distribution Facilities

Coordination of overhead distribution facilities with the background landscape

(配電部 架空配電G)

景観問題に関するお客さま意識の高まりや各自治体での景観条例制定の動きの中で、架空配電設備の建設を円滑に進めるため、景観に関する有識者や地域のオピニオンリーダーにアドバイスを頂きながら、架空配電設備の景観調和メニューを明確化した。今後はこれを基に、景観に調和した設備形成を推し進めていく。

(Overhead Distribution Group, Distribution Department)

Public awareness of the aesthetic aspect of landscapes has been increasing, and ordinances for the conservation of the landscape are being studied by many local governments. In order to construct overhead distribution facilities which satisfy those concerned, we have established a set of criteria for the compatibility of overhead distribution facilities with the landscape, with the help of landscape experts and local opinion leaders. We plan to build distribution facilities that blend in with the landscape, in conformity with these criteria.

1

研究の背景と目的

21世紀を間近にひかえた今、心の豊かさを求める生活重視の社会潮流の中で、様々な地域や多様な分野で自然との調和や美しい景観の形成に向けた取組が盛んに行われている。

このような背景の中で架空配電設備の建設を円滑に進めていくために、本研究では景観に関する豊富な研究実績をお持ちで自治体等の委員を歴任されている有識者の知見を踏まえ、景観に調和した架空配電設備の形成方法を明確化した。

2

研究成果

本研究では、配電設備の背景となる「場」を第1表に示す12の建物種別に分類し、それぞれの背景における景観調和の考え方を明確化した。今回は研究成果として2つの具体的事例を紹介する。

2-1 住空間における景観調和の具体例

住空間では、日常生活の中において歩行者の視線で配電設備を見る機会が多く、スカイライン（建物の高

さの線）よりも高い配電設備は空に対して浮き彫りとなり目立つことになる。このため、「天空率を上げ開放感のある設備形態とする」「直線・直角で構成し整然とした設備を形成する」「美観装柱等により個々のデザイン性の向上を図る」「空や建築物の基調色に合わせ色彩はグレーとする」といったポイントで設備形成をしていくことが必要となる。

第1図に背景が住空間で戸建て住宅の場合の具体例を示す。写真Aが現行の配電設備で、イが今回の考え方に基づいて作成した景観調和のイメージ画像である。

写真イでは、支持物の高さを低くしたり、変圧器を低い位置に取り付けし、開放感を確保すると共に、引込線を直角に引き込んだ形態に変更し、整然とした秩序を形成している。

2-2 観光地域における景観調和の具体例

観光地域では、記念碑などを見ることが目的であることから、その視界の中に配電設備が存在すると、非常にイメージを阻害することとなる。このため、「シンプルでコンパクトな資機材を使用し設備のボリュームを低減する」「視点場から配電設備をできるだけ外す」「美観装柱等により個々のデザイン性の向上を図

第1表 背景となる「場」の分類

生活空間	日常空間	住空間	
			1. 戸建て住宅
			2. 低層集合住宅
			3. 高層集合住宅
		都市空間	4. 近隣商業地
			5. 中心地・繁華街
	非日常空間	工業地域	6. 工場・工業団地
		観光地域	7. 史跡・城跡・城郭
			8. 寺社
			9. リゾート（テーマパーク・遊園地）
オープンスペース			10. 田園等（建物無し・電柱のみ）
その他			11. 景観保護区域・建物保存地区
			12. その他建物

る」「周囲の基調色に合わせ、ブラウン資機材の使用を検討する」といったポイントで設備形成をしていくことが必要となる。

第2図に背景が観光地域で史跡の場合の具体例を示す。写真イでは、記念碑より右側にずらして支持物を配置し、記念碑を見るという視界から配電設備を外すことにより、配電設備が史跡空間に与えるイメージを最小限としている。

3 研究の成果のまとめと今後の展開

今回の研究を通して、景観に関する権威ある先生方の知見を交え、背景となる「場」の分類ごとの架空配

電設備の景観調和メニューを設定することができた。

今後はこれらの成果を基に、

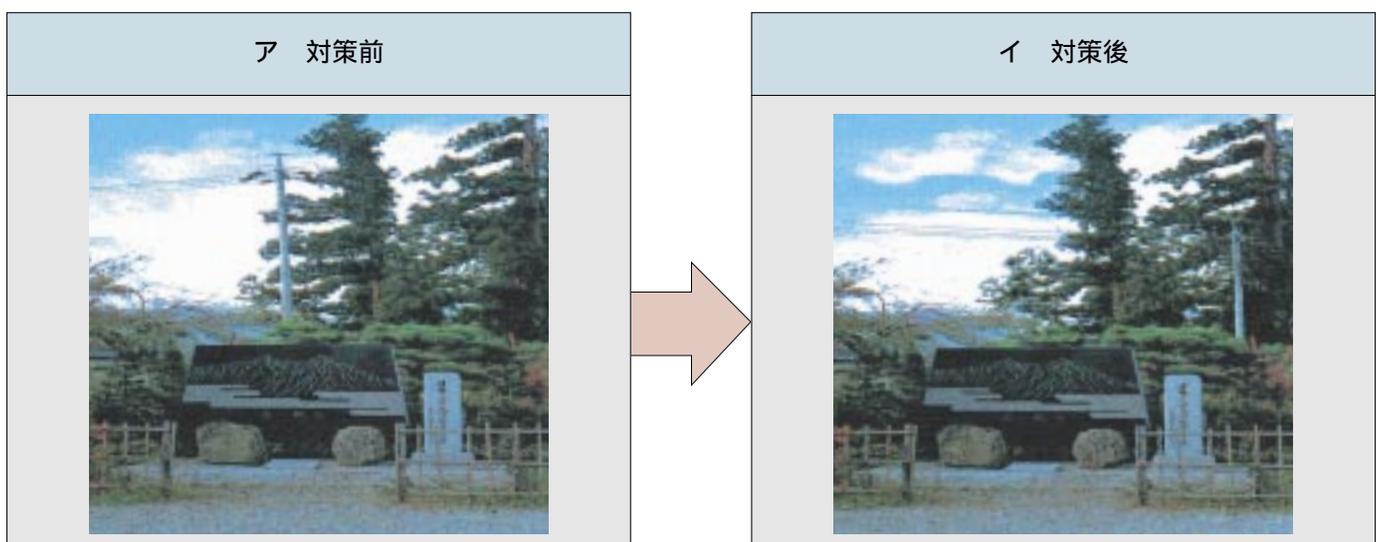
「架空配電設備の景観調和指針」を制定し、設計者の意識高揚と景観調和設備の形成を実施していく。

有識者からの知見を得た景観調和メニューを、地域・官公庁等へ積極的に提言し、地域一体となって景観調和に努めていく。

こととしたい。



第1図 住空間における景観調和対策例



第2図 観光地域における景観調和対策例